

## 事業計画書

事業名	ド根性 さくっこ事業 ～ 笑顔 SaKu 体験から学びへ ～		
重点テーマへの該当	有 テーマを記載		
	無		
実施箇所	佐久市岩村田2542-1 休耕水田 約300坪		
実施期間	事業開始予定年月日	令和2年	6月 1日
	事業終了予定年月日	令和3年	3月 31日
事業概要	<p>&lt;事業の目的&gt;            事業背景            昨年の台風19号は、佐久地域全域に甚大な被害を与えました。河川の増水により、田畑は土砂が流入、ガレキ、災害ゴミが堆積し元の姿に戻るには程遠く感じます。            年々休耕中の田畑は増えており、地域の資源を持続し次世代に伝える必要があります。佐久地域では古くから水田を利用し小鮎の養殖を行っており、付加価値の高い無農薬米の販売、そしてフナ生産と一石二鳥の利点から急速に普及し、最盛期には60t、約1億円の産業にまで発展しました。現在は高齢化も進み、佐久と駒ヶ根地区合わせて250戸ほどの農家で、約30tの生産量に落ち込んでおり、昨年の台風被害により生産者がさらに減少することが考えられます。            そして4月時点では、コロナウイルスによる学校生活は過去に経験したことのない時間を過ごしています。この局面に子供たちはどう過ごし、保護者は何をしてあげられるか不安でしかありません。            幼少の頃から自然体験、地域活動、家族行事に参加し、多感な青少年期に多くの体験をした子供は、規範意識、人間関係能力、文化的作法、教養等の人間としての生きる力を多く兼ね揃えた人材へと成長する可能性が広がることでしょう。子供は一人で成長するわけではなく、家庭や地域、学校などの生活の場で様々なことを経験しながら成長していくものです。子どもたちが変化しやすい厳しい時代を生きていくためには様々な経験し自ら考え行動していける人へと大きく成長を期待します。これらのことを踏まえて、本事業の目的を以下とします。</p>		
	<p>事業目的            ■佐久地域の子ども達へ、地域の魅力を体験及び作業を通じ、年齢問を越えたコミュニティーの創出・休耕田畑を再生、命の大切さを伝える。            ■佐久の食文化を次世代へ伝える。</p>		
	<p>&lt;事業の内容&gt;            近隣の小学生・保育園園児には、休耕水田を再生するところから、関わり水田の仕組み、小鮎を産卵⇒ふ化⇒幼魚⇒成魚までの過程を実際五感で感じ、今学校等で学べない唯一無二の体験を行う。佐久総合技術高校生徒には、自らが、実習で育てている小鮎との飼育方、生育状況を比較して頂きます。            募集については、市民新聞等で周知するほか、趣旨、目的共に賛同いただける方に構成メンバーSNS等活用し佐久平・岩村田地域を中心に募集します。</p>		
	<p>&lt;広報表示の方法（佐久市まちづくり活動支援金事業である旨の表示）&gt;            ・小鮎販売時に子供たちの手作りチラシ・ステッカーを作成、表示してPR。</p>		
	<p>&lt;重点テーマに該当する場合 該当する理由（アピール）&gt;</p>		

6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質・温度・生育管理・餌やり・専門家指導（水産試験場）</li> <li>・生産者指導・除草作業・防護ネット準備・支援者、小学生児童共に作業実施</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質・温度・生育管理・餌やり</li> <li>・除草作業・防護ネット準備</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質・温度・生育管理・餌やり</li> <li>・除草作業・防護ネット作業</li> <li>・出荷に向けた研修準備</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質・温度・生育管理・餌やり</li> <li>・除草作業</li> <li>・出荷作業</li> <li>・学校他 調理実習（ご協力頂いた地域の皆様）</li> <li>・商店街にて販売体験</li> <li>・事業検証・報告書作成</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度へ向けた水田整備・事業実施検証</li> <li>・トラクター田起こし 1回</li> <li>・ショベルカー水田整備 1回</li> <li>・事業検証・報告書作成</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施検証</li> <li>・報告書作成</li> <li>・トラクター田起こし 1回</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業検証</li> <li>・次年度事業実施計画</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業検証</li> <li>・次年度事業実施計画</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業検証</li> <li>・次年度事業実施計画</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業検証</li> <li>・次年度事業実施計画</li> <li>・休耕田畑の再生（除草作業・土づくり・畔シート）</li> </ul>

<p>地域や社会にどのような利益がもたらされるか</p>	<p>&lt;「公益性」の視点&gt;          ・地域学校との連携により、コミュニティースクールの一助とし、経験豊富な世代の皆様が今の世代へ伝える機会を創る。          ・近年田畑に大人、子供たちは関わる時間や機会も減ってきている中、水田に目を向け伝統である佐久特産の「小鮎」を地域住民に知って頂き、一年間自然体験、田畑作業、調理（加工）を通して共に食の提供を佐久っ子に地域魅力を伝える事ができる。</p>
<p>どのような点に独自性や工夫があるか</p>	<p>&lt;「発想の豊かさ」や「創意工夫」の視点&gt;          地域高校生・小学生に休耕水田を再生する過程から携わるにより他では出来ない体験ができる。          生育の状況を観察、飼育出荷することで命の大切さを感じ取ることができる。販売に携わることで、お金の大切さ、苦手なコミュニケーションにも積極的に取り組める。（どろんこリクリエーション等）          ・学校給食等の食品ロスの観点より、残飯（パン類）にご協力いただき関心を高める。</p>
<p>市内へどのように取組が波及していくが見込まれるか</p>	<p>&lt;「波及効果」や「発展性」の視点&gt;          ・佐久特産の小鮎の生産者が減少、害鳥類による出荷量の減少を地域住民の皆様を知って頂くと共に食文化を今の世代に知って頂く事ができる。          ・若者が事業に取り組むことで、休耕農地の再利用の普及          ・需要家へのニーズ対応が可能である。          ・地域企業が活動を利用し、事業のみならず幅広い分野で付加価値を生み出せる。</p>
<p>活動を継続するためにどう取り組むか</p>	<p>&lt;「自立性」の視点&gt;          ・地域の学校関係者と学校教育にはない居場所の提供を行う          ・地元商店街や地域の皆様と出荷まで関わって行くことで持続していく。          ・生産性を安定させるために飼育記録や指導を受け安定的に事業を行えるよう取り組む。</p>
<p>翌年度以降の活動内容概要</p>	<p>翌年度以降の活動          整備した備品等を有効活用し、年間を通して休耕水田を利用し子供たちが自由に遊べる居場所づくり、お米作り体験、小鮎の養殖を継続していく。</p>
<p>事業の最終目標</p>	<p>・地域の魅力を体験及び作業を通じ、年齢間を越えたコミュニティの創出・休耕田畑を再生、命の大切さを伝え、佐久の食文化を次世代へ伝える。          ・生産から販売までの過程で子供たちの笑顔を創る</p>

特記事項